25 journal
society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU　okamura.nobuyoshi@gmail.com

■左のQRコードでアクセスし、バックナンバーが読めます。

上川乗橋は完成から27年不通
檜原村南北横断道路の名残りに

「超芸術トマソン」化
バブル崩壊で都財政悪化し頓挫

1985年前後、作家の赤瀬川原平さんが提唱する「超芸術トマソン」という言葉がブームになった。不動産に付属し、まるで展示するかのように保存されている無用の長物を指す。その頃に巨人に在籍し4番を任されながら不発に終わった元メジャーのトマソン選手に由来する。

西多摩では檜原村上川乗にある1995年完成の上川乗橋（仮称）がその1つ。都道33号に接続した両側に1・5㍍の歩道を伴った幅員8㍍ほどの橋だが、一方は山に突き当たったままだ。

斜面がコンクリートの覆われた坑口。檜原街道（手前）から坑口への取り付け道路は草木に覆われかすかに見えるだけ

全長約4㌔、ほとんどがトンネルとなる檜原村南北横断道路の南秋川口として完成したが、その後、都財政の悪化により工事は頓挫した。南秋川側と袋小路となる北秋川側をつなげ、道路網の面から村の一体化を高めるとともに災害発生時の地域の孤立化を防ぐ側面もあった。現在、建設が進む日の出町大久野肝要地区と青梅市を結ぶ梅ケ谷トンネルと似た用途を持つ。

■

「超芸術トマソン」の烙印は押されてないが、現状はその状態に甘んじているのが、あきる野市の平井川に架かる草花大橋。完成して10年以上経過するのに通行できない。

いつ開通するのか。地元住民はもとより周辺の道路利用者らも不思議に思い月日が流れている。同市議会の一般質問でも取り上げられ、都建設局には問い合わせが寄せられているが、開通は未定としている。

同大橋は現在、歩行者は通行可能だが、自動車、自転車は通行禁止となっている。橋につながる道路にはいくつもの通行止めが設置されている。一部住民からは「片側一車線でも通行させてほしい」との声があり、都には住民から行政質問がでている。

草花大橋　いつ開通
氷沢橋交差点付近の整備進まず

早期の開通が待たれる草花大橋。今は幾重にも通行止めが置かれ通行できない

都建設局は、現在は同大橋から氷沢橋交差点の間のいずみ通りで、両側に歩道を付けた拡幅整備を進めているとした上で、氷沢橋交差点付近は現道が狭あいであり、同大橋を開放して交通量が多くなると、登下校の児童や歩行者の安全確保が難しくなるため、片側一車線の通行を含め困難な状況にあるとしている。引き続き、早期完成を目指すとしながらも、地権者との交渉もあり、開通時期は見通しが立っていないという。

ただ、努力は続けられており、開通はそう先ではなさそうだ。

「東京25ジャーナル同窓会かわら版」3月5日号からスタート！
東海大学菅生高校同窓会　菅生川蝉会第1号を掲載

「東京25ジャーナル・高校同窓会かわら版」が今号（3月5日）からスタートしました＝2面掲載。東海大学菅生高校同窓会の菅生川蝉会の協力を受け、取材を行い、紙面づくりを行っていきます。社会で頑張る卒業生の皆さんと共に現役生の活動なども紹介し、卒業生のつながり、世代間の交流を促していきます。

菅生川蝉会は2012年の創立30周年の式典で、準備委員会が立ち上がり、1期生が50歳の節目を迎えた18年6月に発会。初代会長には渡邉弘行さんが就任しました。

同高校は1982（昭和57）年に開校。これまで1万7000人ほどの卒業生を送り出しています。中等部、初等学校も設立。幼稚園と併せて一貫教育が行われています。

菅生川蝉会の同窓会づくりに向け同窓会員、関係者の皆さんの情報提供（題字下メールか090-8460-9688）をお願いいたします。

■「東京25ジャーナル同窓会かわら版」では掲載高校を随時募集、拡大していきます。各校同窓会役員の皆さんからの問い合わせも受付けています。

東海大学菅生高等学校 同窓会『菅生川蝉会』

川蝉会は東海大学菅生高等学校の建学の精神に則り、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的としています。

事務局　学校法人菅生学園内　担当：近藤英一
〒197-0801 東京都あきる野市菅生 1468
TEL.042-559-0066（代表）／FAX.042-559-0577

職人技のネットワークで
快適な生活空間を造ります
総合建設業　東京都知事許可　第 77829
須崎土建
〒198-0014 青梅市大門 2-360
☎0428-31-1432　fax0428-31-5731

東京25ジャーナル・高校同窓会かわら版

東海大学菅生高校　菅生川蝉会　第1号

御岳山からお元気ですか！

宿坊継ぐ1期生　金井さんと原島さん

通学は片道2時間半　始業1時間遅れで助かった

共に1期生で、青梅市の御岳山で宿坊を継いでいるのが御岳山荘の金井格（いたる）さん（54）と原島荘の原島美由紀さん。

金井さんは妻と両親、英会話でカナダに留学中で調理師資格を持つ長女（23）、栄養士を目指す次女（20）、4月に高校2年になる三女と暮らす。「長女、次女は二葉栄養専門学校に通い、三女も同じ道を希望。宿坊のことを考えていてくれるのかな」と顔をほころばす。

原島荘の前で金井さん（左）と原島さん

原島さんは両親が盛り立てた宿坊を会社員の夫に支えられながらしっかり守っている。救急救命士の長男（23）、4月からそれぞれ大学4年、高校2年になる次男、長女の成長を楽しみにする。

「母も私も看護師で、山で急病患者が出た時など相談を受けてきた。長男もそんな思いで山に役立ちたいと思っているのかも知れない」と思う。

通学は片道2時間半、接続が悪いと3時間かかった。島田久理事長が開校から4年ほど始業時間を1時間遅らす措置をしてくれ、助かったという。

それでも部活はわずかな時間しか参加できず、バレーボール部だった原島さんは親戚、ワンダーフォーゲル部だった金井さんは顧問の船田先生や友人の井草博さん宅に泊まらせてもらうことが度々あったという。

「顧問の高田先生、1年担任の近藤先生、2、3年担任の山岡先生はじめ皆さんにお世話になりました」と原島さん。「厳しかったけど生徒を思って怒ってくれる先生ばかりだった」と金井さん。

体育館ができたのは入学半年後。体育の授業は山のグラウンドまで走った。修学旅行は長崎、沖縄で戦争の足跡をたどった。

年賀状や電話で連絡が付く人も多いが、「やっぱりみんなに会いたいと思う年齢になった」と2人は顔を見合わせた。

年々、同窓のネットワーク拡充

菅生川蝉会初代会長　1期生　渡邉弘行さん

2018年に誕生した菅生川蝉（かわせみ）会の初代会長を務めるのが1期生の渡邉弘行さん（54）。発会して4年、半分がコロナ禍に置かれ、行事が開催出来ず、歯がゆい思いをしてきた。感染の心配がなくなり、みんなに会いたいとの思いが募っている。

在校当時、生徒会副会長をやっていて、その時の生徒会担当だった近藤英一教諭が同窓会設立準備会の学校側責任者だったことから会長にと白羽の矢が立った。断わったが、押し切られた。

1期生は1983年4月入学。7クラスで、1クラスに45人ほどいた。男女比は6対4で男子が多かった。

学校生活は自由奔放、やりたい放題。毎日が楽しかったと振り返る。部活はバレーボール部に入部。主将を任されたが、部員数がおぼつかない状態。翌年新1年生を迎えて、公式戦での初勝利を挙げた。渡辺さんはエースアタッカー、生徒会長だった水野恵介さん（青梅市）がセンター、土屋洋さん（あきる野市）がセッターだった。

「コロナ禍で、行事が開催出来ず、歯がゆい」と渡邉さん

後輩たちは現在も監督を続ける会田信一先生の下、10年余りで全国大会への門を開けた。今年の春高バレーでは24年ぶり3度目の出場を果たした。

「私は小中高と先生に恵まれた。高校では部活で会田先生、生徒会担当で近藤先生にお世話になった。2人とも体育教師。体育教師を目指し、国際武道大学に進学した」

89年、菅生高校で3週間の教育実習をした。とにかく楽しかったが、同時に大変さも分かってしまった。バブル経済の絶頂期、就職は黙っていても決まった。教師の道は進まず、先輩に誘われゼネコンに入社。だが、バブル崩壊とともに会社は傾き、30歳でJA東京みどりに入組した。

現在は副支店長を務める。「250人ほどの職員のうち、12人が菅生の卒業生」と頬をゆるめる。

菅生高校の卒業生は約1万7000人。年を追うごとに同窓のネットワークは拡充し、会社や地域での活躍も目立っている。「菅生川蝉会を通し、同窓の絆を強くし、同窓生の繋がりの輪をひろげたい」と胸を膨らませる。

武蔵村山市在住。長女が結婚し、妻と4月から新社会人となる長男、大学生の次女の4人暮らし。

この人

春高バレー出場　縁の下の立役者

データ分析で活躍　マネージャー　小林さん、笠松さん

男子バレーボール部（会田信一監督）は、春の高校バレーとして1月に開催された第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会に24年ぶりに出場した。初戦で弘前工（青森）を撃破。続く高川学園に敗れ、上位進出はならなかったが、最後まで頑張った選手たちは夢の舞台に立った誇りに胸を張った。監督と選手を支えたのが4人のマネージャー。中でも3年生の小林栞さんと笠松日菜さんは陰の立役者。会田監督は「よく気がつき、私の右腕、左腕として奮闘してくれた」とねぎらった。

春高バレーの看板の前で小林さん（右）と笠松さん

全国に行った感想は。

小林「そもそも春高に行くとの目標で菅生高校に入学し、バレーボール部マネージャーになりました。昨年はベスト4で悔しい思いをしたので、目標が達成でき感無量です」

笠松「同じ日の出町立平井中学校だった馬場快人主将、セッターの五十嵐大望選手に誘われマネージャーになりました。頑張ってみんなと一緒に春高に行けてうれしかった」

マネージャーの仕事は、洗濯、掃除、用具や備品の管理、発注、事務や会計作業など多岐に渡る。SNSなどでの情報発信などもある。さらにアナリストを担当していると聞いた。

小林「バレーボール専用の分析ソフトウェアを使い、サーブやアタック、ブロック、レシーブ、トスなど選手の動きのデータを収集し、分析。数値化して監督や選手に伝えるのがアナリストの役割です。データはプレーの修正や戦術に活用されます。使いこなすのに大変だったですが、しっかり後輩に伝えていきたいですね」

3年間続けられた原動力は。

2人「選手たちと夢を追えたことと、2人だから辛いことも乗り越えられました」

先輩マネージャーとは連絡を取ったか。

2人「2学年上の小林渚先輩と馬場千里先輩は、私たちの3年間の活動を動画にまとめてくれました。うれしかった。1学年上の大久保陽子先輩は昨年あと1歩のところで春高に行けなかった分、全試合を見てくれて号泣したそうです」

1年生の後輩マネージャーに一言。

2人「上級生がいないので大変ですが、1人で抱え込まず、選手も含めみんなで支え合って頑張ってください。気配り、目配り、心配りを大切に」

卒業後の進路は。

小林「IT関係の会社に進みます」

笠松「看護専門学校に通います」

アナリスト、マネージャーの仕事が生きると思う。頑張ってください。